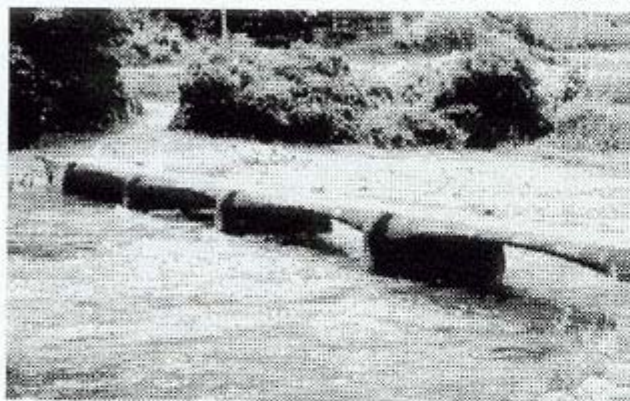


『四万十川沈下橋保存方針』

「沈下橋（ちんかばし）」。文字通り「(水の)下に沈む橋」。欄干が無く、川面に近い場所に建設されています。この沈下橋が四万十川及び支流を含めて50カ所以上残っており、古いものとしては、昭和10年建設のものもあります。

この中から管理者が明らかな47橋を対象として、高知県と四万十川流域8市町村長で構成する「四万十川総合保全機構」が一体となって、原則保存していく方針を決定しました。この方針は、「清流四万十川総合プラン21」(H8.3.高知県策定)で生活文化遺産として位置づけ、保存する方向に沿ったものです。



●大正町 向山橋

今後は、流域住民の生活や文化、景観、親水性、観光等の視点によって、第1種と第2種沈下橋に区分し、特に第1種沈下橋については、原型復旧し重点的な維持管理と復元を行っていきます。

とは言っても、現在、国にも県にも保存のための財政支援制度はなく、今後この方針に基づき、県庁内での検討はもとより、国に対しても新たな制度を要望していくこととしています。

俵万智さん危機一髪！！

沈下橋 沈下してゆくさまを見つ

今夜は川に抱かれて眠れ

四万十大使、俵万智さんが「ちいさい旅 みつけた」(週刊朝日9/18号：発売中)で詠まれた歌です。俵さんが取材で四万十川を訪れた時は、連日の大雨で、文字通り暴れ川に変身。沈下橋がみるみるうちに水没していきました。危うく濁流に飲まれかけようとしていた俵さんの驚きが、臨場感を感じさせながらご紹介されています。

四万十情報

●「四万十りんりんサイクル」スタート！

前章でお知らせしたとおり、本日9/10よりスタートします。ぜひ利用してみてください。「サイクルロードマップ」ができていますので、四万十川対策室まで連絡いただければお送りします。

なお、予約は西土佐村観光協会カヌー一館(0880-52-2121)で承っています。

次章(10月10日発信)は、「四万十川の価値」を予定。